

「アメリカの方が日本産米が安い？」

ジェットロで20年勤務後、ニューヨークで起業して12年。マーケティング、ロジスティクス、そしてオペレーションの面から、北米への進出をサポート。日本企業とのパートナーシップを基に、日本の優れた商品を北米市場に紹介している。



＜北海道産日本米 5kg で約 2700 円の衝撃＞

筆者はニューヨーク市から1時間弱の、日本人駐在員も多く住む、郊外に住んでいますが、近所の日本食スーパーで、北海道産ななつぼしが、18.99ドル、約2700円で販売されていました。

日本の知人に知らせたところ、かなり安い、ということで、昨今日本でのお米騒動からすると、少し不思議な状況になっています。

店主に伺ったところ、「割と早い時期に仕入れたからじゃないかな」とおっしゃっていて、NHK他、日本のテレビ局もそのように報道しているようです。



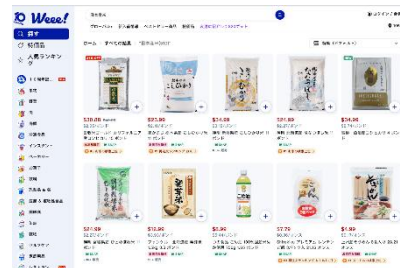
＜手に入りやすくなった日本産米＞

筆者がニューヨークに転勤してきた2008年当時は、オンラインで日本食を買うなどということは全く想像もできませんでしたが、コロナを経た現在では、オンラインでも買えるようになっています。なかでも、昨今急成長しているのは、日本食を含むアジア系食品に特化したオンラインショップ「Weee」です。同社は2015年、中国、武漢出身のLarry Liu氏が創業したオンラインショップですが、現在では、果物、野菜、肉、海鮮などの生鮮食品のほか、冷凍食品、インスタント食品、ベーカリー、お菓子、飲料、乳製品&卵、豆腐&植物性食品、調味料、缶詰、乾物など非常に多くのアジア系食品を取り扱っています。さらに、セルフケア用品や家庭用品など食品以外も扱うなど急成長しているサイトです。

同サイトではいわゆるカルフォルニア米などの米国产米の他、栃木県産 こしひかり米（約5kg）23.99ドル、新潟県産 こしひかり米（約5kg）34.99ドル、北海道産 ななつぼし米（約5kg）24.99ドル、魚沼産 こしひかり（約2kg）34.99ドル、宮城県産 ひとめぼれ米（約5kg）24.99ドルなどが現在販売されています。

＜日本産米よりも高価なカルフォルニア産コシヒカリも流通＞

一方で、日本のブランド米を米国で生産したお米も出回っています。Weeeでも販売されている「かがやき米 コシヒカリ（約7kg）33.99ドル」などは、5kg換算だと25ドルで、むしろ、日本産米との価格差がほとんどありません。冒頭ご紹介した、筆者の近所の日系スーパーの日本産米の方が安くなっているくらいです。カルフォルニア産コシヒカリの味もなかなかのもので、筆者も好んで買ったりしています。日本の稲作は、国土の保全や食料安全保障、自給率の維持に貢献しており、何より水田がつくり出す日本の原風景として、これからも残ってほしいと思いますが、カルフォルニアで作られたコシヒカリ、日本でお米が本当に足りないくらいでしたら、もっと輸入してはと思うのは筆者だけでしょ。



＜アメリカ向け米の輸出は5年で約5倍に＞

一方、日本政府は人口減少を見据え、米の輸出振興に力を入れています。農林水産省の発表資料「米の輸出をめぐる状況について」（本年8月発表）によれば、アメリカ向け輸出は2019年の1,980トンから、2025年の年換算で1万トン超えが予想されるなど、約5倍に成長しています。

「日本でお米が足りず価格が高騰しているのに？」という声も聞こえてきそうです。日本で販売するよりも安く輸出しても利益が出るのであれば、何らかの補助金が出ているのかもしれませんが。そうした情報は日本国内ではあまり報道されていないようですが、非常に気になるところです。

米国から日本への渡航者も急増しており、現在では年間300万人近い米国人が訪日しています。本格的な日本料理を日本で体験し、米国でも日本食レストランが急増・高品質化していることから、今後も日本産米や米国产日本ブランド米の市場は拡大していくでしょう。こうした旺盛な需要を支える日本の米づくりと農政に期待したいところです。

